



広安里

発行 釜山日本人学校

釜山広域市水営区民楽洞173-8

TEL 051-753-4166

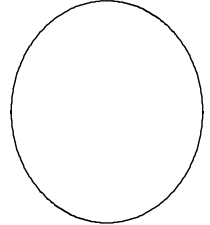
FAX 051-756-4851

<http://user.chollian.net/~pusjpnsc>平成
17年度
第3号

「人間万事塞翁之馬」

釜山日本人学校 学校運営委員長

山根 貴志



今年度より、学校運営委員長をさせて頂いております山根でございます。

私は、これまで米国・台湾と海外赴任をした経験があり、今回の韓国釜山で三度目の海外勤務ということになります。

台湾に6年と長期赴任していたことや、その後の仕事も中国に関係が深かったため、普通の方よりも多少中国に関する興味関心が高いのではないかと思います。従って、今回は日本にもなじみ深い中国の「諺（ことわざ）」についてお話しさせて頂こうと思えます。

言うまでもないことですが、日本語は「漢字」をはじめ、また漢字をくずして作られたと言われる「ひらがな」も基をたどれば中国から伝わったものですが、私達は古い中国の故事にならった「人生のエッセンス」とも言うべき「諺」を教えられてきております。

また諺には、故事にならったもの以外にも、孔子や孫子など教訓めいたものまで幅広く、さらに長い諺から4文字の短い諺まで、その種類は豊富です。

例えば故事に因んだこんな四字熟語はご存じでしょうか？

- 一諾千金（一度了解したら必ず約束を守ること）
- 一敗塗地（非常に重要な局面で、失敗したら後がないこと）
- 四面楚歌（まわりが敵ばかりで、孤立無援であること）
- 走馬看花（物事を慌しく行い、浅薄な内容しか習得しないこと）
- 狡兔三窟（もしもの事態に備えておくことが重要ということ）

孔子の教えには、永い教育者としての人生からたくさんのお教養があり、儒教が日本に広く根付いたことから、古くから日本の教育の基礎とされました。

また、孫子の兵法には、ご存知武田信玄の旗印「風林火山」をはじめ、「進不求名、退不避罪」など軍略を通した人生の教えが書かれています。

数々の諺がある中で「人生万事塞翁之馬」というものがあります。

これは、昔中国北方の国境近くで馬の飼育で暮らしていた老人にまつわる物語です。

ある日、飼っていた馬のうち駿馬が柵を越えて逃げてしまい、近所の人たちが口々にお悔やみの言葉を掛けると、その老人「なあに、平気だよ」とそっけない表情。

やがて春になると、逃げ出した駿馬が多く野生馬をつれて帰ってきました。

この時、近所の人々は口々にお祝いを言いましたが、その老人は「何も嬉しくはない」とこれまたそっけない返事。

またある日、老人の息子が馬に乗って調教していた最中に、落馬して足を怪我し普通に歩くことができなくなりました。この時も近所の人たちは口々にお悔やみの言葉を掛けましたが、その老人は「なあに、平気だよ」との返事。

しばらくして、その地方一帯で戦争となり、年若い男性は皆徴用され戦争に行き帰ってきませんでした。その老人の息子は足が悪いため徴用を免れ平和に暮らしたというお話です。

この諺に出てくる老人は、無愛想で人付き合いが好きでなく、人がお悔やみを言えば平気だと言い、人がお祝いを述べると嬉しくはないと言うなど、とても馴染みにくい人物のような気がしますが、この諺の言わんとすることは「福の禍となり、禍の福になる」とも言うべき、「一見すると幸せそうな状況もこの先どうなるか分からないぞ」と言う警告と、「今とても不幸だと思っているだろうが、将来かえって幸せになることもある」という激励の意味がこめられているものと思います。

百歳以上の元気なお年よりが、日本には20,000人以上もいらっしゃる今の日本で、未だ中年の領域に位置する私が申し上げるのも甚だ僭越ではありますが、人生終わる瞬間まで分からないもの、いやきっと将来良い事が待っているに違いないと確信して生きていくことに致しましょう。

敬 具